



Data 2022-54

監督・脚本: ショーン・ダーキン
出演: ジュード・ロウ / キャリー・クーン / チャーリー・ショット / トウエル / アディール・アクタル

👁️👁️ みどころ

時代は1986年。バブル崩壊直前の日本は「我が世の春」を謳歌していたが、それはニューヨークで成功した本作の主人公も同じ。今、ロンドンに移住すれば、さらなる大金を！

彼の儲け話は企業合併だが、保守的な英国に“イケイケドンドン”の米国流を導入すれば、成功間違いなし！英国人の夫のそんな考えに対して、米国人の妻は意外にも正反対！？

この男の真の実力は？それが見せられないまま、ストーリーは彼の中身の無さを少しずつ暴露していくので、アレレ、アレレ……。『不都合な理想の夫婦』という、わかったような、わからないようなタイトルをかみしめながら、ラストに見る4人家族の食卓に注目したい。

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————

■□■ 『我愛你』は面白かったが、本作の夫婦は？■□■

中国第6世代監督の旗手、張元（チャン・ユアン）が演出した『我愛你（I LOVE YOU）』（03年）（『シネマ17』345頁）は、犬も喰わないはずの夫婦ゲンカを描く「ドキュドラマ」だった。中国四大女優の1人、徐静蕾（シュエ・ジンレイ）が夫に対してヒステリックにわめく姿はあまり見たくないが、彼女がそうなったのには、ある深い理由があったらしい。したがって、同作ではわが身、わが夫婦を省みながら、スクリーン上で繰り広げられる「夫婦ゲンカ」の根の深さ、そして「我愛你」と言う言葉にとことんこだわる女心をじっくりと研究することができた。

それに対して、本作のタイトルになっている『不都合な理想の夫婦』とは一体ナニ？私はいくら考えてもその実態を掴めないが、さて、本作の夫婦は？

■□■ 1986年、世界は好景気！移住すればさらに大金を？■□■

『スターリングラード』(01年)『シネマ1』8頁)で主人公となるソ連の狙撃兵(スナイパー)役を演じ、「最高のベッドシーン」と「息づまる決闘」を見せてくれたのが、若き日のジュード・ロウ。あれから20年経っても彼のカッコ良さは変わらない。

本作の時代は、日本を筆頭に、アメリカもイギリスもバブル景気に浮かれていた1986年。ニューヨークで貿易商を営む英国人のローリー(ジュード・ロウ)は英国人の妻アリソン(キャリー・クーン)、息子と娘の4人で幸せに暮らしていたが、さらに大金を稼ぐ夢を追って好景気に沸くロンドンへの移住を妻に提案し、強引に妻の同意を獲得。ロンドンでの理想の生活を実現した、かに思えたが……。

■□■この大邸宅は理想への第一歩?それとも……?■□■

移住した大邸宅は子供用とはいえサッカー場まである大邸宅だが、いかにも古そう。これでは補修や維持管理に金がかかるのでは?また、馬を飼っているアリソンのために新たな馬小屋を作るそうだが、2人の子供の学校の送り迎えは大変そう。勤勉なローリーは朝寝坊なアリソンを無理に起こさず会社に向かったが、車は1台しかないようだから、アレレ……。

かつての上司が経営する商社に舞い戻ったローリーは、社長からも元同僚からもその才能を高く評価されていたが、彼が目指す大金稼ぎの狙いは不動産?それとも企業合併?カネ余りのご時世だから、投資家はたくさんいるだろうが、ホントにうまい話がゴロゴロ転がっているの?ローリーの実力はホンモノ?それとも……?

本作は、最初からローリーが才能豊かなビジネスマンとして大成功を収めている、という前提でスタートしている。しかし、あるパーティの席で演劇論を語る彼の姿をみても、かなり薄っぺら。したがって、もし妻から「この人、演劇なんて見たことがないのよ」などと暴露されてしまうと……。

■□■米国流の合併案件の成否は?■□■

英国人は保守的で何かと慎重だが、米国人は新進の精神にあふれ行動的。すると、カネが動いている今のご時世は、英国流より米国流の方がベター。企業合併を進めていけば、どんどん金は入ってくる。それがローリーの持論だから、社長にも自分の会社を身売りし、さらなる転身を図るよう提案したが、それってホント?

他方、朝早くから会社に出かけていくローリーに対して、馬の調教などで何かと家にいることが多いアリソンの方は、いろいろと家の古さが気になるらしい。ここも補修、あそこも補修……。ちなみに、こんな大きなお屋敷の冷暖房費はHow much?ローリーはホントにそんなことまで頭に入れているの?ある日、アリソンが「補修に来てくれ」と業者に電話すると、意外にも「料金が未払いだ」と言われたから、アレレ。大型の合併話に奔走中のローリーは、それがまともまれば大金が入ってくると信じているようだが、それはまだ協議中の案件で、確定した収入ではないのでは?

そんなこんなストーリー展開を見ていると、ローリーは本当に実力あるビジネスマン

なの？50年近く弁護士をやってきた私には、こんな怪しげな口ばっかりの男は信用できないが・・・。

■□■米国型？英国型？どちらがベター？■□■

英国人と米国人の異同はナニ？それは、例えば昔のチャーチル首相と1期前のトランプ大統領を比較すれば明らかだが、『不都合な理想の夫婦』と題された本作の夫は英国人で、妻は米国人。そんな国籍の異なる夫婦がハナから抱える問題は・・・？

それは結婚前に考えるべき問題だが、本作を観ていると、冒頭からこの夫婦の意見はあまり一致していないことがわかる。ロンドンへの移住もアリソンは強引なローリーの提案に渋々従っただけだ。そのため、「満足している？」という質問には「YES」と答えたが、その実は・・・？

■□■この男はホンモノ？それともカッコだけ？■□■

私は近時、中国の歴史時代劇をたくさん見ているが、そのすべてが面白い。とりわけ「三國志」に関連するものは面白い。それは、全50話近いストーリー展開の中で英雄豪傑たちの本性が否応なく浮かび上がってくるため。つまり、カッコだけの奴とホンモノとの仕分けが明確になされていく過程が面白いわけだ。

本作では、ローリーが能力を発揮し、大成功に至るまでの姿は全く描かれていないが、ロンドンへ移住した後は彼の中身のなさ（薄っぺらさ）が否応なく暴露されてくるので、それに注目！本作でさらに注目したいのは、それを隠すのではなく、逆に手を貸すのが妻のアリソンだということ。中国映画『活きる』（94年）（『シネマ2』25頁、『シネマ5』111頁）では、夫唱婦隨の頑張りによって何とか人生を乗り切っていたが、本作のように少しずつ妻が夫から離反していけば？

本作ラストでは、ついにローリーも“方向転換”を決意するが、さて2人の子供を含めた「不都合な理想の夫婦」の今後は？いくら大きなお屋敷でも、家族4人の食卓はほどほどの大きさ。しかして、本作ラストに見る4人家族の食卓は如何に？

2022（令和4）年5月6日記